

子ども参加型の地域づくり事例

新富げんきなひろば

《子どもたちがひろばの活用を考える経緯》

- 新富地域の地主さんから、『子どもの遊び場』に利用してほしいと市に寄付された。
- ふるさと協議会に相談し、近隣3町会・3小学校の代表者を集めて運営委員会ができ、協議を進めた。
- 運営委員会で委員から『ひろばを使う子どもたちの意見が協議に反映されないのはおかしい』という意見を受けて、子ども小委員会を発足。
- 子ども小委員会で、校長、PTA会長、町会の子どもの会の方々と話し合い、3つの小学校で、ひろば活用のワークショップと、公募者による子どもたちが、子どもの代表として、運営委員会での活用の提案をすることになった。

1

子ども参加型の地域づくり事例

新富げんきなひろば

- 近隣の小学校（3校）に出向いて、模型を使いひろばの計画案の説明と、ひろばの活用方法を考えるグループワークを4年生・5年生を対象に実施した。
- アンケートは
約千人分を回収



2

子ども参加型の地域づくり事例

新富げんきなひろば

- 近隣の3校で公募をし、その公募者（25名）によるアンケートの分析とテーマ分け
- テーマ別による活用の提案と対応策の検討



3

子ども参加型の地域づくり事例

新富げんきなひろば

- テーマ別の活用案とその対応策案のボードを作成
- 運営委員会での発表と運営委員との意見交換



4

子ども参加型の地域づくり事例

新富げんきなひろば

- 無事に運営委員会で、子どもたちの主張がすべて通り、翌年度は、ひろばの活用方法を子どもたちに提案する『遊び場クリエーター』として、ひろばのオープンの際に子どもたちや来場者に向けデモンストラクションを行った



5

子どもの力を借りた地域づくり事例

多世代交流型コミュニティ実行委員会

子どもたちは

社会の『宝』から、地域の『カ』になった

- ・祭りの際、中学生は設備の手伝いを、小学生はゴミを分別回収しましょうというプラカードを作成
- ・中学生が、『地縁のたまご』のマークのデザインを考え、大人の前で2回プレゼンテーションし、採用になったマークをガレージに描いた



6

子どもが主体的に活動する事例

子どもチャレンジプロジェクト

- 活動の際は、必ず自分でお弁当を作ってくる
- 環境イベントで、風呂敷の包み方を来場者に伝えた
- イベントを大人の手を借りずに、企画運営をした



7

若者の自己実現と社会参画する活動事例

ヤングパフォーミングメント・ヤングクリエイター養成講座

- 若者が社会に向けて自分達で表現の場を企画運営する
- 若者が自分の考えを社会に提案
それを実現に向けて支援する

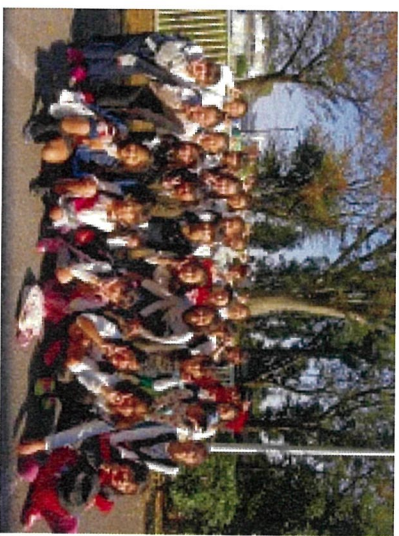


8

地域と学校の連携事例

福祉教育からの地域・小学校・中学校・高校の連携

- 高田地域
 - ・ 地域の行事に生徒が参加 (文化祭ほか)
 - ・ 学校行事に地域住民が参加 (教育ミニ集会ほか)
 - ・ 安全パトロールを一緒にする (青パトほか)
 - ・ 避難所計画を一緒に考える



9

地域と学校をつなげる中間支援

地域と学校をつなげる人材と体制づくり

- 中間支援団体
 - ・ ふるさと協議会・地区社協・青少協等
- 中間支援者
 - ・ 学校支援コーディネーター
 - ・ 地域コーディネーター
- 中間支援の体制づくり
 - ・ 学校と地域に事務局機能を (用務員を事務局化)

つなげる人材 (中間支援者) が双方に必要

地域と学校を時間軸でつなぐ

おやじの会がゆるやかに地域と学校をつなぐ

- 地域の担い手となる、ゆるやかな人材ネットワークの育成
- 子ども会が今と未来の地域と学校をつなぐ

- 『子(は鏝)』 子どもは、地域と世代をつなぐ
保護者は地域の担い手に、地域で子どもを育てて、
子どもたちが地域を育ててくれる

